


どうか
僕に
ご褒美を

R-18



それは突然のキス
から始まった

毎日地球のお話を聞かせてくれて嬉しいから……

これはそのお礼だと思ってください

えっ……

あっ

きっと、^{ツァーリス}火星の王族にはそういう風習があるのだろう……

打ち震える心とは裏腹に頭では冷静を装う為の理由を復唱した

しかし回数を重ねるたびに姫様の行為はエスカレートしていき……

さらに僕を惑わせた

鳥はどうやって飛ぶのですか？

話に没頭すると服をめくり上げしどろもどろになる僕に質問を投げかけた

地球の……空は……

その……

あっ……と

胸を曝け出し戸惑う視線の行方を観察したり



話のお礼という
名目だった
唇を合わせる
だけのキスは……

んっ……



いつからか
舌が交わる
ものとなり……

んんっ……

あふっ



そして
姫の唾液を
飲まされる
だけに
変わって
いった……

おいひい
ですか？

ふあい……

ある時は
目隠しをされ
後ろに手を縛られ

何も履かないドレスの中で
僕の呼吸の乱れを
肌で堪能していたりした

触れては
いけませんよ？

吐息が
くすぐったい…

姫様の甘くて
淫靡な香りが
鼻を突きぬけ
脳に充満すると

真っ暗な眼前は
真っ白に変わり

すーはー

すーはー

僕は果てて
しまった

姫の戯れも
月日を増し
過激にはなれど

それでも
幼い僕達は
一線を超える
ことはなかった…

そしてお礼という名の
ご褒美が終わると
姫様は直ぐに寝室へと
足早に戻っていく



そして月日が経ち
僕が変声期を終え

姫様が初潮を
迎えても

その行為は
しばらく続いたが

研究者である父が
他界し火星での
身寄りが無い僕は
クルーテオ伯爵に
引き取られた事により
その関係は幕を閉じたり

2年後

久しぶりに
会えますね
……スレイン

突然会いに行ったら
さぞ驚くでしょうね

また地球の
楽しい話を
聞けるかしら

お話したい
事が沢山……

はあ
はあ
姫っ!
アセイラム姫っ!

スレイン……

っあ……
アセイラム
姫殿下……!?

軌道騎士では
楽しく暮らして
いるのでしょうか



いえ……
これは……



何を
していた
のですか？



どうして
こちから……

はっ

ひっ……
姫様！



立って
スレイン

昔はよくお互いに見せ合いつこを
しましたよね？



でも……

今更隠す事は
ないでしょう？

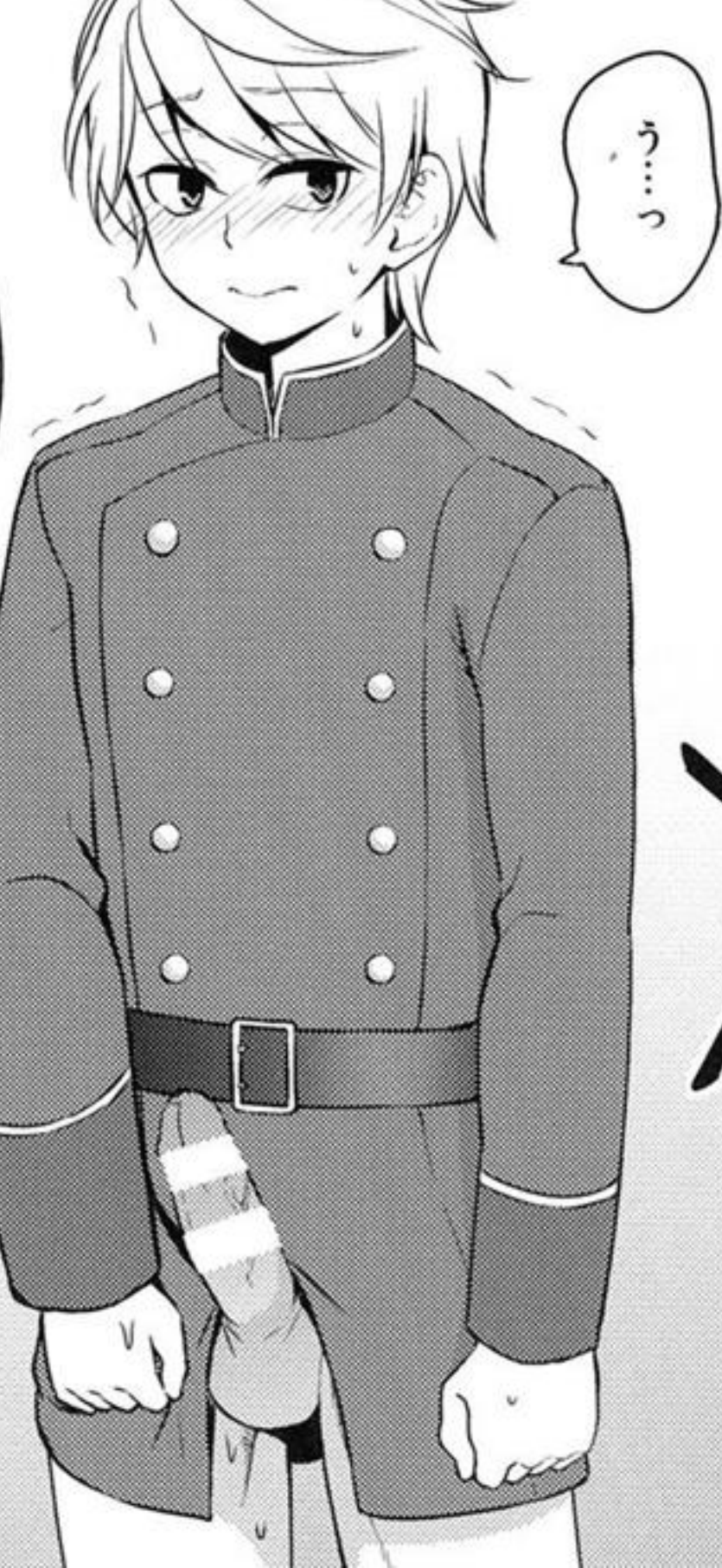


いつも私を
想って

こういう事を
していたのですか？

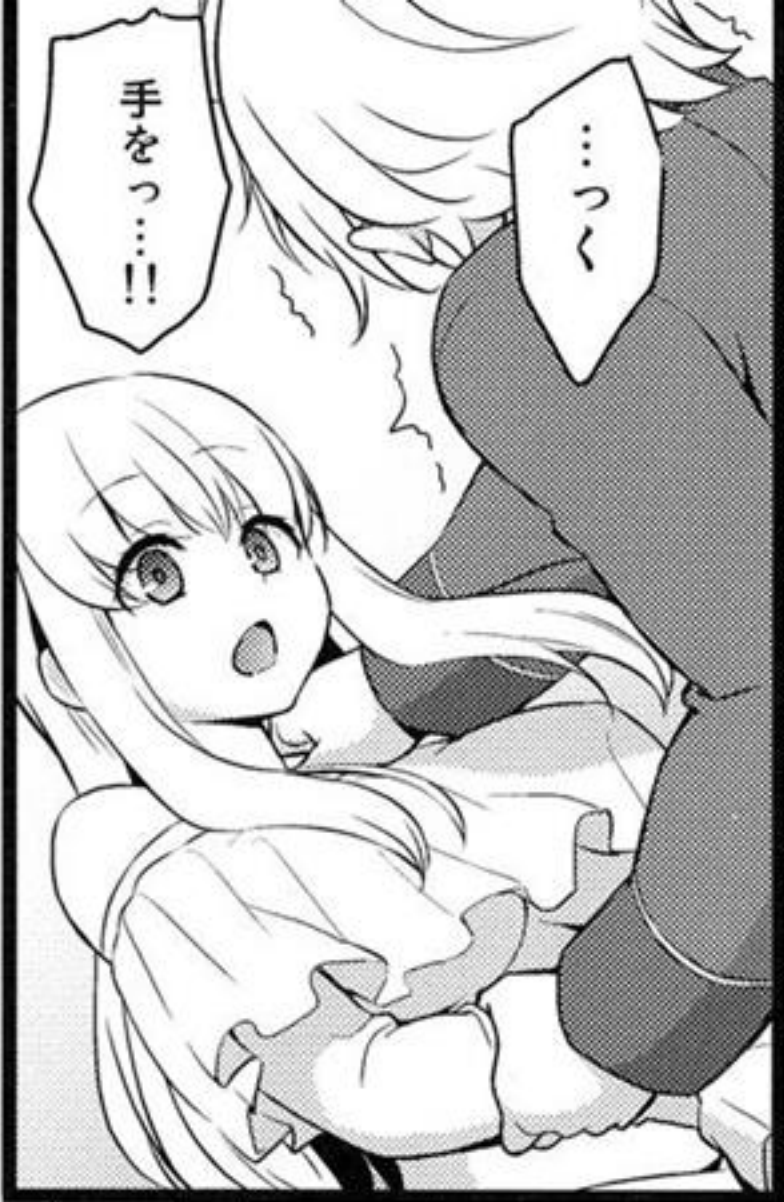


でもあなたは
幼い頃の過ちで
あなたは
もう忘れたんじゃないかと思っ
ていたけど……



う……

ス……





ヴァースと地球とは

何か違うのでしょうか？



申し訳ございません!!

しゅる...

そういえば



地球での性交の話は

一度も聞いた事がありませんでしたね？



!



何をなさって... いるのですか!?

こんなところでも誰かに見られてもしたら...





何を
わから
ないか
かしら
?

あれ
だけの
機会が
あった
のに手
を出さ
なかった
のは



わ…
わ…
女性
の裸を
よく見
た事
がない
ので…

では
性行為
も見た
事がない
わけ
ですね?

それ
では同
じか
どうか
なんて
わか
りませ
んよ
ね?



姫さ
ま
何を…!?

ん…



違
います
!

姫さ
まを
性の
対象
とし
て
見る
など

恐
れ多
い
か
ら
であ
って…



い
け
ませ
んっ
!

は
あ…
んっ

あ
あ…





地球ではどうか
わかりませんが

んっ

ヴァースでは

動かなくては
性行為ができませんよ

気持ち良い
ですか?

ううっ

そんなに
動かれては…
あっ

ズッ
ズッ

ズッ
ズッ



地球の
空や大地…

そこに住む
動物達の
事を…

ズッ
ズッ
ズッ



さっきから
目をつぶって
何を考えて
いるの?

それと

うっ…

ズッ
ズッ



性の対象には
できないと言って
いましたけど

私の名を
呼びながら

妄想の中では
汚していたの
でしょう？

あれは……

その……

はあ……

はあ……

ふふっ

妄想の中の私は
どんな事をして
いたのかしら？

従順で都合のよい
女にされて

はあ……

言われるがままに
犯されていた？

んっ

それとも

ゆっくりと腰を
沈ませて焦らされる
スレインの顔を眺めて

楽しんで
いましたか？

ズッ……

はあ……

はあ……

うっうっ……

こんなふうに……

ズッ……

はう……

くっ

えっ!?

アセイラム姫!

がは

きゃっ!

姫っ
申し訳…
ございま…せん

もうっ…!!

我慢がっ…

ズ
ニッ

ズ
ッ

はっ
はっ

ふうっ

ダメです…
そんな強く…

あっ

ああっ

はっ
うう



ああ…

はああっ

ズ
ッ



ズ
ッ
ホ

ズ
ッ
ホ

あっ

あ…



あっ
あぁ...

はっ
はっ
はっ

はっ
はっ
はっ

くっくっくっ...
姫っ...!

あっはあ
んっうん...

はあっ...
あっん...



はっ...あ

ふう.....

はあ
はあ

はあ

はあ



あどけない顔……
なんだか幼少の頃に
戻った気分……

また苛めて
しまいたく
なるわ……

トキッ

ねえスレイン

おい、



自分だけ
満足している
なんて
どういう事
なのかしら？

私はまだ
満たされては
いませんよ？

くたゆ……

トキッ……





はあ... はあ...

んあ...
んっ...

んぐっ...

あっ...
ああっ

何だかスレインに
主導権を
握られっぱなし...

はっ...
ああ...

あんっ

私がおもちやに...
されてる... みたい...

はあ
はあ

はっ
あ

はっ
あ

はっ
あ



スレインもお疲れ
でしょうから
今日はここまで
しておきましょう

それから
数日が過ぎた……

姫様が船に滞在中は
時間を作っては
昔のように地球の
話をして差し上げた……

一つ違うのは
話が終わった後には
何もなかった部屋に
戻るだけだった……



そんなに
深刻そうな
顔をして……



どうしました？

あの……

今日のお話しも
とても楽し
かったです



……



奥付

2014年12月30日発行

サークル 山田一族。(もきゅ 袋小路)

URL <http://yamadaweb.sakura.ne.jp/>

MAIL kouya812jp@yahoo.co.jp

印刷 スズトウシャドウ印刷

無断転載、複製禁